opusdei.org

## 属人区長の手紙 (2017年1月31日)

属人区長フェルナンド・オカリス師からオプス・デイのメンバーへの最初の手紙。1月23日からの思い出を伝え、頂いた祈りへの感謝を述べ、故エチェバリーア司教を思い出されています。

2017/02/09

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように! 初めて皆さんに、私の娘たち、息子 たちよ、と呼びかけて手紙を書き送 る感動がお分かりになるでしょう。 23日、月曜日の夜から、ローマの皆 さんの兄弟姉妹が私をパドレと呼び 始めたのです。その自然さと率直さ に私は驚きそして感動しました。そ れに引きかえ私は、勇を鼓して娘た ち息子たちと呼びかけるのにほとん ど一週間もかかりました。というの も当惑を禁じえなかったのです。同 時に、力強く単純な忠実を感謝して います。私たちは皆イエス・キリス トにおいて兄弟です。同時に今、私 は、世界中でオプス・ディを形成し ている大群衆、信徒として実に様々 な活動に従事している男女、多くの 司祭たちのパドレです。中には属人 区に所属している人もいるし、多種 多様な教区でただ教区の司教の下に ある人もいますが、皆、教会に仕え るために固く一致しているこの小さ な家族の一員です。

ここの所、聖パウロのコリント人への手紙の言葉を思い出していま立 で神の招きはいつも私たちに先立 ち、私たちの愚かさや弱さにはニュー が際立っています」(1コ付き が際立っています」りとのが がい無くしては与えられない私を の落ち着きを神に感謝します。においる にお願いるもしているもします。 にお願いるもします。 にお願いるとがといる。 においるとがといる。 においると、 においると、 にいると、 にいる

あられる聖霊がもたらすものです。

聖ホセマリアの二番目の後継者ドン・ハビエルを絶えず思い起こはいでいます。過去に関する思いでははないません。常に教会の中に息づいる神の憐れみの歴史に周ませんのはないとするとはないとするというます。ドンマリアとはコールはアンドションをは大国から私たちを助け続けてお

られます。深い感謝のうちにドン・ハビエルのことが思い出されます。

「各世代のキリスト信者は、自己の 属する時代をあがない、聖化しなけ ればなりません。そのためには、聖 霊の働きかけと神の聖心(みこころ) からつねにあふれ出る豊かな宝に対 して、どう応えるべきかを、『言葉 の賜物』をもって告げ知らせること ができるように、隣人や同僚を理解 し、その抱負を分かち合わなければ なりません。福音の、古くかつ新し い知らせを、私たちの生きる世代や 社会に告げ知らせることは、キリス ト信者に課せられた義務なのですし (『知識の香』132番)。子どもたち よ、創立者の子としての使徒的熱意 を自分のものにし、創立者のあの モットー、Omnes cum Petro ad lesum per Mariam 皆がペトロと共 にマリアを通してイエスへ、を実現 することが私たちに課せられている のです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

フェルナンド

ローマ、2017年1月31日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkucho-tegami-2017-1/(2025/12/16)